

# 1 2月定例教育委員会 会議録

日	時	平成30年12月12日(水) 午前9時30分～午前10時00分
場	所	甲府市役所 9階 会議室9-2
出席委員	小林教育長・小宮山職務代理者・原委員・市川委員	
出席事務局職員	嶋田教育部長・山本生涯学習室長(生涯学習課長兼任)・星野総務課長・松田学校教育課長・宮川学事課長・照沼教育施設課長・本田甲府商業高等学校事務長・碓井甲府商科専門学校事務長・田中歴史文化財課長・小林スポーツ課長・本田図書館長・芦川総務課課長補佐・宮川総務課課長補佐・鷹野総務課課長補佐・保坂総務課主任	
傍聴人	1名	
署名委員		
委員会書記		

・教育委員あいさつ

・会議録署名委員の指名 市川委員

・11月定例会及び臨時会会議録の承認 原案のとおり承認

小林
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">市川</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">小宮山</div>
<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">原</div>

## 1 開会

### 小林教育長

これより12月定例教育委員会を開会します。

### (1) 教育委員あいさつ

#### 小宮山職務代理者

おはようございます。いよいよ平成30年があと僅かで終わりとなり、市役所の入り口を入りましたら開府500年のカウントダウン表示もあと3週間を切りました。この1年の間には、開府500年の開幕前のイベントということで、色々工夫をなされた非常に多様な事業あるいはイベントにいくつか参加させていただきました。甲府が開府されて500年という大きな歴史の節目を来年の1月1日に迎えますが、これが単なる打ち上げ花火のような一過性のものでなくて、必ず引き続き甲府の活性化に繋がるようなイベントにみなさんと心を共有しながら新年度に向けて進んでいけたらと思っています。

また、この1年間私ども教育委員として特に感じましたのは、事務局の皆様方が非常に丁寧に調査をしたデータや資料を出していただき、我々が最終的に判断させていただきますのに参考

になりました。本当にありがたいと思っています。

私事でございますが、たまたま12月の教育委員の挨拶が私の最後の教育委員会となります。10年近く教育委員を務めさせていただきまして、本当にありがたいと思いました。教育委員になったのは、図らずも突然天から来たような話で、最初はお断りをしようかと思いましたが、引き受けさせていただきました。私は私なりに1人の市民という立場で自分の経験の中から色々な意見を申しあげ、それを取り入れ、また、ご意見をいただき本当にありがたいと思っています。

今回の話は以前にも話をしたことがあります、子どもたちの創造力や挑戦力をどのように育てていったら良いかという話であります。

ちょうど今ノーベル賞ウィークで本庶先生が免疫によるがん細胞を駆逐するための新しい発見と対策を構築され、私は食品分野をやっており、ベースは細胞レベルとか生命科学でほぼ一致しますので、非常に楽しく感じていました。

本庶先生、山梨県の大村先生とも30年近く一緒に科学アカデミーという分野で仕事をさせていただきましたので非常に身近に感じます。ちょっと中身を見ますと、私もノーベル賞を取れるのではないか、という錯覚に陥るくらい非常に身近なテーマであり、研究の内容も理解できます。

その先生方の足取りを辿ってみると、これから若い人たちが挑戦していくためには、学力だけではなく非常に重要な点があるのではないかと思います、それを統計的な見方で調べてみました。

ノーベル賞というと非常にハードルが高いし、本庶先生もホールインワンよりずっと難しいということを報道で言っていましたが、これは確率の問題ではないと思います。確かに研究者が何十万人もいるわけですから、そういう大学の研究者のレベルからすれば非常に難しいと思います。

日本国内で整理してみますと、どうしても学力最高峰という我々は、東京大学をイメージしますし実際に東京大学の関係者が多いのですが、実は本当に東京大学出身でノーベル賞を取った方というのは1人しかいないのです。

今まで世界でノーベル賞を受賞された方が900人位おり、その中で日本人は27人、約3%ということになります。自然科学の分野が23名で残り4名が文系です。イングロさんは別にしまして川端さん以下全員文系は東京大学出身なのですが、理系はちょっと違ってきます。わずかに20数名の受賞者、例えば江崎玲於奈さんとか中村修二さんとか田中耕一さんは、民間企業にいた方です。こういった方々は意欲的な研究によってノーベル賞を受賞されました。この中で系列的に見ますと東京大学の出身が5名、その中で東京大学を卒業して、それから東京大学の先生になってノーベル賞を取った方というのは小柴さんしかいません。例えば江崎さん、南部さん、根岸さんは海外へ行って研究をし、ノーベル賞を受賞しています。それ以外に京都大学出身の利根川先生も海外へ行っています。これはいかに日本の中で想像力を発揮して野心的な仕事をしにくいかということを物語っています。この先生方の著書を読みますと、「日本では組織の力によって個の能力が非常に抑えられてしまう。」と記述しており、日本では、なかなか個人を主張し、それによって新しい分野へ突き進んでいくことが難しいと思います。

しかし、小学生とか中学生の時代の頃というのは結構野心的で挑戦的な子どもが多いと思いますが、成長するにしたがって大きな力の中で押し潰されてくという感じになってしまい、日本の教育システムや社会システムが悪いわけではないですが、これから日本が世界に伸べて成長していくためには個の能力を自由に発揮させていく必要があると感じています。

ノーベル賞を受賞した方の中で、日本で仕事ができないから海外へ行ってしまった方で青色発光ダイオードの中村修二さんがいます。通常、大手の企業や役所だと前例踏襲で、前例がないこ

とに対しては、リスクを回避する方向に向いてしまいます。これが海外では、常に人と違ったことをすることにはお金がついてくるし、やってくれということになります。

ノーベル賞を受賞した方々は、優秀な方が多いですが、必ずしも学力が優秀であったとも言えないのです。知識ということよりも、研究者として自分の道を切り開くだけの力があり、何かに熱中し、邁進できるような性格の方々が新しい分野を切り開いていくと、私の経験の中からそう思います。

また、共通して、「非常に多くの先生方や恩師にお世話になり、その誘導によって自分の道が切り開かれた。」というようなことが本に書かれています。大きな研究成果を得るには偶然性もありますが、一つの未知の分野を諦めずに続けていくという性格の子どもを先生が発見するということが重要だと思っています。

一人ひとりの子どもの特徴をしっかり掴んで、その子どもたちが何に向いているのかを一言サポートしてあげることによって、将来、子どもたちが自らの力で新しい分野を切り開いて行けるということを自分自身の人生を振り返って非常に感じ、私は先生方をお願いしたいと思っています。

特に小、中学校の時に先生に言われた意見は、その時はあまり気にしませんが、大人になった時に潜在的にそういった意見が自分の心を突き動かしていくことによって、大きく成長するのではないかと思います。

特にこの開府500年を迎えて新たなスタートを切る時に、私が思っているのは全国の中で甲府の子どもたちを学力は勿論ですが、それ以外にも魅力ある自分を作り出すような教育の仕組みを考えていただき、それが一つのきっかけとなって甲府がユニークな市になっていければよいかなというようなことを感じた次第です。以上でございます、ありがとうございました。

## **(2) 会議録署名委員の指名**

### **小林教育長**

会議録の署名委員は、原委員を指名します。

## **(3) 前回会議録の承認**

### **小林教育長**

前回の議事録について、事前に配布されておりますが、何かご意見ありますでしょうか。

### **市川委員**

私の話の部分で、主旨は変わりませんが若干の修正をお願いしたい。

### **小林教育長**

では、若干の修正はあるということですが、承認ということよろしいでしょうか。

では承認いただいたということでありありがとうございます。

**【原案どおり決定】**

(教育委員会承認)

## 2 議事

### (1) 議題

#### 小林教育長

報告 第17号 平成31年 甲府市「成人の日のつどい」の実施について 資料に基づきまして、山本生涯学習室長より説明をお願いします。

(山本生涯学習室長より資料に沿って説明)

#### 小林教育長

説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご意見、ご質問等ありませんか。

#### 原委員

第一部については例年どおりということですので良いと思います。質問ですが、「親から新成人へのメッセージ」について、私が過去3年知る限りでは、例年ここはお母様と新成人でしたが、今回はお父様がメッセージを読むことは問題ないと思いますが、「親から新成人へのメッセージ(母子健康手帳の贈呈)」についても、お父様が新成人へ母子手帳を渡すということでしょうか。

#### 山本生涯学習室長

はい。通常、母子手帳というとお母さんのイメージがあると思いますし、今までお母さんからお渡しをしていただいたのですが、今回はお父さんの方からという話になっています。あくまでも我々の式典の中での母子手帳についての考え方は、お子さんがお母さんのおなかから生まれ、この世に生を受けた証であり、また、メッセージについてはお母さんからということではなくて、ご家族で今までお子さんを育て、生まれた時には母子手帳があり、20歳になった時にお子さんに「もう一度足元を見つめ直してもらって、また新たなスタートを切って、これからも頑張ってください。」という意味もありまして、メッセージをお読みいただくお父様につきましては、そのあたりの主旨を十分に私達が話をしておりますので、そういったメッセージを伝えていただければいいかと考えております。

#### 原委員

メッセージの中でそういったものを含めていただければ結構ですが、母親の立場からすると母子手帳は母の物なのです。会場には多分お母様たちがたくさんいらっしゃると思いますが、お父さんが母子手帳を渡すというとお母様の中には違和感を感じる方がいるかと思いますが、可能であればお父様がメッセージを伝えて、隣にお母様がいて、お母様から母子手帳をお渡しする。もしくは、お母様が登壇できないのであるならば、お父様は渡すときのメッセージとしてご来場の方たちがお母様がいらっしゃるかと、不要な憶測を抱かないようなメッセージを添えて渡していただくような配慮を是非していただきたいと思います。

私の個人的な意見ですが、母子手帳のほとんどに母親が妊婦のときの体重から始まって産婦人科での検診結果等の記録がほとんどです。途中から赤ちゃんの体重とかが書いてありますが、その他にも母乳が出なかったとか母親の記録がいっぱい書いてあるので、これをお父さんから渡されるとお母様の中には、ショックを受けるという方もいらっしゃるかもしれません。また、お母

さんがいらっしゃらないのがどうこうと言うことは決してありませんが、不要な憶測をなさる方もいるかもしれません。お祝いの式でそういった想像をみなさんが少しでもなさるのは少しふさわしくないのかなと思いましたので、是非そんな渡し方の配慮をお願いします。

**山本生涯学習室長**

貴重なご意見ありがとうございました。しっかりと今委員さんがおっしゃったお話をメッセージを伝えるお父さんに私から責任を持ってお話をさせていただきます。

**小林教育長**

他にはございませんか。

よろしいでしょうか。

では原案のとおり確認いたしました。

【原案どおり確認】

(教育委員会確認)

**3 閉会**

**小林教育長**

それではこれもちまして、12月定例教育委員会を閉会します。